

降誕節第8主日(白)

主日礼拝

2026年2月15日 10時20分～

司式:

奏楽:

《神の招き》

前 奏 『主キリスト 神のひとりご』 J.S. バッハ
招 詞 イザヤ書51章15節
賛 美 歌 6

《神の言葉》

祈 禱 聖霊の照らしを求める祈り
聖 書 ヨナ書1章1節～2章1節 (旧約1425頁)
マルコによる福音書4章35～41節 (新約 67頁)

子ども説教
奉 唱 6 2 (先唱者と会衆によって)
交 読 詩 編 詩編125編1～5節 (154頁)
賛 美 歌 4 5 6
説 教 「向こう岸へ渡ろう」 八木浩史牧師
祈 禱
賛 美 歌 5 6 9

《感謝の応答》

信 仰 告 白 使徒信条
献 金
祈 禱 献金当番
主 の 祈 り (週報表紙、ホームページ掲載)

《派 遣》

頌 栄 2 8
祝 福
報 告
後 奏

礼拝当番: (役員:) 献金当番:
音響: 映像:

■■■ 調布教会は2026年度に創立80周年を迎えます! ■■■

「向こう岸へ渡ろう」

『ヨナ書』では、預言者ヨナがアッシリアの都ニネベに行つて預言するよう神から命じられます。アッシリアはイスラエルにとって恐ろしい強敵でした。その都ニネベが、神に対する罪によって滅ぼされそうになっているというのは、イスラエル人であるヨナにとっては好都合でした。しかしヨナが御言葉を伝えるなら、ニネベが悔い改め、神による裁きを免れるかもしれないのです。ヨナは預言者でありながらも神の命令に背いて、船に乗り、逆方向であるタルシシュへ向かつて逃亡します。ところが嵐が起こり、船は沈みそうになります。そしてこの嵐がヨナの背きに対する神の怒りによるものであることが判明し、ヨナは海に投げ込まれます。そこへ神が遣わされた大魚がヨナを呑み込むのでした。

『マルコによる福音書』では、湖畔で教えを語っておられた主イエスが「向こう岸へ渡ろう」とおっしゃり、群衆を残して弟子たちに舟を漕ぎ出させられます。すると激しい突風により波が立ち、舟は水浸しになりました。不安になった弟子たちは眠っておられる主を起こし、「私たちが死んでも、かまわないのですか」と言います。主は起き上がり、風と波を静められ、「なぜ怖がるのか。まだ信仰がないのか」と弟子たちに言われます。弟子たちは「一体この方はどなたなのだろう」と非常に恐れるのです。神の子である主イエスが共に舟に乗っていてくださることを、私たちも信じて、安心していただきたいですね。